

無錫ワークショップ、ポジションアンケート

2010/07/07

名前：熊谷章

所属：TAO BEARS LLC, Japan

1. 無錫のイメージとオフショアの経験

(1) 訪問の経験

中国は60回目位、無錫は二度目

(2) 無錫と聞いてのあなたのイメージは？

太湖の辺で工業と産業が盛ん。現在、ハイテク産業の中国内の重要拠点の一つとして政府が力をいれている。これに対して、海外のグローバル企業も興味を示し様々な活動と計画が実施されている最中。中国政府ならびに無錫政府は、長期計画と展望の下に普通では考えられない企業誘致と起業のサポートを行っていることで有名。

(3) 無錫が目指している技術者、研究者が集まってくる街づくりで必要なことは：

技術は文化の中で熟成され産まれる。先端技術や新技術の創生を目指すならば、無錫全体が近代文明と近代文化の環境とそれを体現する人々がそこに棲まないとい何事も生まれな
いと思う。かつて、人工都市の試みがほとんど失敗し、むしろアメリカのシリコンバレー
のような村集落がテクノロジーイノベーションを起こしたことに学ぶ必要がある。

(4) グローバルオフショアの経験は？

一つ目は、1990年代に上海に PFU 上海公司という会社を設立し初代総経理を務めた。
そのときの仕事は 100%親会社である PFU(日本)からの発注であった。このような会社は標
題のグローバルオフショアの範疇に入るのか不明であるが、ビジネスの形態と仕事のやり
方は同じだと考えている。

二つ目は、東京エレクトロンに務めていた 2004 年にインドのソフトウェア会社を訪問し
技術者と面談して歩いた。グローバルオフショアの相手先を見つけ、かつ優秀なエンジ
ニアを日本に呼び寄せるためだ。このとき、中国とインドの差異を強烈に感じた。まるで、
水と油だと思った。水はインドで油が中国である。この性質をよく理解した上でビジネス
展開することが今後大切だと考えている。このとき、築いた関係をベースに日本とインド
のグローバルオフショアは現在も続いている。

2. 「次世代オフショア」ワークショップについて

(1) OSS 活用についてのご意見は？

OSS は適材適所で使用するのがよいと考える。これは、ソフトウェアの世界では一般常

識となっている。ただし、市場に売り出すプロダクトの中に OSS を組み込む場合は注意と調査が必要だ。次の課題に対して理解と見解を持っていれば良いと考えている。

- ① ライセンスの管理体系、管理標準、ライフサイクル
- ② ライセンスの更新 仕様変更 利用制約の管理と周知
- ③ ライセンスの利活用の追跡の仕組み、使用許諾契約
- ④ フリーソフトウェアの取扱い
- ⑤ ソフトウェア保守体系（商用 自社資産 フリーソフト）標準、サービス分類

(2) グローバルなプロジェクト管理についてのご意見は？

今後はマルチリンガル、マルチカルチャの人々で構成されるプロジェクトが多くなるだろう。そのときには、必然的に従来とは違ったプロジェクトマネジメントの側面を考慮する必要がある。ソフトウェアプロジェクトの組織論とも呼ぶべき次の内容を提案したい。チームの形態、プロジェクトのパラダイム、コーディネーションの方法、プロセスモデル、組織の構造、文化と組織構造と関係の六テーマである。

(3) 討論したいサブテーマやアイデアがあれば記入ください。

- Culture, Organization, Science, Engineering
- ソフトウェアを巡る議論（社会学、言語学、科学、哲学）
- A New Programming Methodology from the View of Immaterial Labors
- Semiotics, Languages, Computers as Media of Cultures

(4) 話題提供できることがあれば記入ください。

(3) の 4 テーマに関して既にレジュメがあり一時間程度の話題提供ができる。

3. そのほか、要望事項などあればお書きください。

無錫の現地企業の人々と交流できる時間が欲しい。私の仲間の一人である、東青一（中国名陳青）は現在無錫のニコン工場でソフトウェアエンジニア兼マネージャとして働いている。このような実務をしている方々とグローバルオフショアや上述のテーマに関して意見を交わしてみたい。また、できれば現地企業の実態を見学させて欲しい。

それから、太湖といえば、汚染と自然破壊で有名であるが、その後の対策でそれらの問題がどのように解決されたかを知りたい。

以上